

兵庫県保険医協会 神戸支部ニュース

256号 2013年1月25日

発行 兵庫県保険医協会神戸支部

連絡先 〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F

兵庫県保険医協会 TEL/078-393-1801 FAX/078-393-1802

2013年

新年のごあいさつ

支部長 田中 孝明



神戸支部の皆様、新年、明けましておめでとうございます。

旧年中は神戸支部活動に御参加、御協力頂き、誠にありがとうございました。今年も変わらずの御支援をお願い致します。

昨年末、政権が民主党から再び自民党に移行し、安倍内閣が始動しておりますが、公約通り、日本を取り戻すことができるかどうか、注意深く見守りたいものです。

ところで、今年の干支は蛇であります。大概の人には気持ち悪く思われておりますが、ギリシャ神話に登場する医神アスクレピオスの蛇の巻きついた杖は御馴染のものです、我々の世界では、昔より医学のシンボリックな存在であります。

さて今年も保険医協会神戸支部は、蛇の巻きついた杖のごとく、会員の皆様の歩みをサポートし、御一緒に脱皮し、成長していくことを御誓い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



神戸支部医科歯科連携研究会「糖尿病と歯周病」 医科歯科が連携した治療の重要性を学習

神戸支部は11月11日、協会会議室で医科歯科連携研究会「糖尿病と歯周病」を開催し、49人が参加した。医科ではこたに糖尿病内科クリニック(灘区)の小谷圭先生が「糖尿病の最新の話と歯科との連携について」をテーマに、また歯科ではルミナスデンタルクリニック(中央区)の川西敏雄先生が「歯周病の特殊性と歯周病治療の特殊性」をテーマにそれぞれ講演。糖尿病、歯周病治療の考え方や注意点、医科歯科連携の必要性などを日常診療の経験にもとづきわかりやすく解説した。参加者からの感想文を紹介する。

医科 糖尿病の最新の話と連携について

中央区・船曳産婦人科医院 船曳和子



小谷圭先生が糖尿病の最新の知見や生活習慣の注意点を解説

糖尿は万病の元、「血管がやがてぼろぼろになるから」と聞かされてきた。

糖尿病内科クリニックの小谷圭先生がわれわれ素人にもわかりやすいスライドで、糖尿病患者の増加や生活習慣病(高血圧、肥満⇨運動不足、喫煙の三大悪と糖尿病の関係は常識だが)のほかに歯周病が合併症であるお話をされた。

最近クリニックで行われた患者さんへのアンケート結果も面白かった。糖尿病になると、悪性腫瘍ができやすくなり、炎症物質であるTNF- α が放出され、ますます血糖が上がりやすくなる。歯周病も慢性的な炎症であり、単に歯が抜けたら入れ歯にすれば良いという問題ではない。

最近クリニックで行われた患者さんへのアンケート結果も面白かった。糖尿病になると、悪性腫瘍ができやすくなり、炎症物質であるTNF- α が放出され、ますます血糖が上がりやすくなる。歯周病も慢性的な炎症であり、単に歯が抜けたら入れ歯にすれば良いという問題ではない。

糖尿病薬の特徴も車のアクセルやハイオクガソリン、アイドリング、エコタイヤな

どに例えて、古典的なものから最近の薬の特徴・研究の話までお聞きした。

また、朝食によく摂られるトマトジュース・カフェオレ・ゆで卵・ウィンナーパンで食後血糖データを出された。パン1枚と2分の1枚で食後血糖はこんなに違うのかと驚かされた。

ω 3(α リノレン酸)、DHA、EPAは脂質としておすすめで、また、ごはんを少なくカレースープを多くしたほうが、食後血糖値が上がりにくいとお聞きした。カレー大好き人間の私にとって朗報だった。

歯科の川西敏雄先生からは歯周病について30分、スライドで説明を受けた。ガリガリする歯石除去などは何回行っても慣れることができない不快な感覚だが、毎食後に歯磨き以外にも歯のケアを生涯努力しなければ、先生方の説得もムダになってしまうし、薬漬けのあわれな日々になる。

飽食三昧のわがまま人間が生涯健康長生きを望むなら、心身ともに自己鍛錬が大切であるとおつくづく考えさせられた。

【歯科】 かかりつけ医との連携が不可欠

垂水区・なつき歯科 夏木 順平

「糖尿病」というと成人病の中でも症例の多い病ということで、もっと勉強をしたいと思い参加させていただきました。

小谷先生の解りやすい説明、表現で今まで知らなかった知識を得ることが出来て良かったです。「糖尿病」の内科的知識については、歯科医の私には解らない点も沢山あります。現代病とも言える生活習慣が深く関わっていることは知っていましたが、合併症について「がんにかかる確立が高い」、「悪性腫瘍」、「認知症」など新しい症例があると言うのは意外でした。現在、10秒で2人増えている現実に患者さんへの問診が大変重要であると感じました。

先生のお話の中で、「歯科医に糖尿病であることをつたえていますか?」という問いに、「はい」と答えた方が74.3%であることを知りましたが、その中でも血糖の数値の高い患者さんによって、歯科治療も注意しなければなりません。患者さん本人がどこまで認識しているかと言うことが重要ですが、こちらから尋ねることも大切だと思います。かかりつけの内科医の先生と

も連携を取りながら安全、安心な治療を行うことも私たちにとっても必要不可欠です。

「歯周病」については、川西先生のお話で糖尿病の方でもプラークコントロールが重要



川西敏雄先生は口腔ケアの重要性を強調した

であること、中でも最初に行われる原因除去療法期が大切であり、この処置を軽視すると、その後続く歯周処置は失敗する可能性が高いと言われております。患者さんのIQを高くするような私達、歯科医師の努力も怠ってはならないと思いました。

今後も糖尿病と歯科治療に関して勉強が出来るように、次回もより深い講習会を開いていただけたらと思います。本当に有難うございました。



県下各地から49人が参加して学習した

患者さんにオススメください

健康情報テレホンサービス

TEL:0120-979-451

2月のテーマ

- 【月 曜】 お子さんの「身長曲線」を描いてみましょう
- 【火 曜】 胃潰瘍は口臭に関係あるの?
- 【水 曜】 便秘でお悩みのあなたへ
- 【木 曜】 首のしこりや腫れに気づいたら
- 【金土日】 お薬手帳のはなし

会 員 投 稿 かざみどり通信 12



ボクシングとの出会い

宮武 博明 先生

(垂水区・ドマーニ神戸クリニック/協会理事・神戸支部幹事)

亡き父が無類のボクシング好きでした。プロレス・キックボクシングは駄目でしたが。テレビ中継が頻繁にあった頃でしたのでよく見ておりました。昭和45年、大学1年生の時に上京して、始めて後楽園ホール(プロボクシングのメッカ)で生の試合を観戦してから、さらに身近になってしまいました。

現在、神戸市内にはジムが三つあります。千里馬神戸ジム(中央区)・真正ジム(中央区)・VADYジム(長田区)です。以前はプロボクシングは暴力団がらみで、その業界の方達がうろうろしていました。最近はかなり薄れてきています(まだごく一部で残っていますが)。選手の純粋さがいいです。出で立ちは茶髪やヤンキーな格好で大丈夫かなとも思えますが、じかに話したり練習風景を見る限り本当に「純」です。

殴り合いですからやはり怖いです。怪我もつきものです。ジムのセコンドも選手の健康管理にはかなり注意を払っておられます。私も各ジムの方から相談も受けています。

本番のリングに上がるまでの過程は並大抵のものではありません。減量しかり、拳や関節のトラブルなど様々です。そして試



試合は神戸市内でも定期的に行われている
12月22日にも市立体育館で開催された

合当日を迎えた時の緊張感は凄いものです。八百長はありません。勝つか負けるか引き分けるか。試合後の姿も悲喜こもごもです。声を掛けれる時もあれば控え室に戻るのを黙って見ている時など・・・。

神戸ではサンボーホールや大倉山の市立体育館で1~2ヶ月毎に開催されています。一度会場まで足を運んでみませんか。

神戸支部ニュースへの投稿を募集しています

支部ニュースへの投稿を募集しています。

日常診療にかかわることや、主張、趣味のお話などお寄せください。



電話 078-393-1817/FAX 078-393-1802 e-mail ntm@doc-net.or.jp 担当 ; 納富まで